

## 茨城県图画工作・美術教育研究部研究調査委員会 授業実践研究報告(令和元年8月)

研究テーマ	材料のよさを感じ取り、自分なりのイメージを基に表現する力を育てる 学習指導の工夫 - 第3学年「のこぎりひいて、ザク、ザク、ザク」の実践を通して -
-------	--

常総市立絹西小学校 教諭

### I 研究テーマについて

茨城県の2019年度「学校教育指導方針」では、图画工作における重点「形や色などと豊かに関わる資質・能力の育成」とし、具現化の取組として「形や色などを基に、自分のイメージをもつこと」と掲げられている。

本学級の児童は、图画工作に対して意欲的であり、图画工作の時間を楽しみにしている児童が多い。工作の単元では、事前に教科書の作品を見て、使えそうな材料を持ち寄って、少しでも自分の作品をよりよくしようと製作に熱心に取り組んでいる。また、完成した作品をお互いに鑑賞し合うことで、互いに工夫したところや自分には考えつかなかつた工夫を発見し伝え合うなど、互いのよさを認め合いながら作品の鑑賞を行うことができる。

しかし一方では、材料を組み合わせたり、製作途中の形からさらに発想を広げて深めていくことを苦手としている児童が多い。児童の大半は、製作に入る前に教科書や教師のお手本を見て「自分もこういった作品をつくってみたい。」という思いをもち、「そのためにはどういった材料が必要なのか、またどのように組み合わせればよいのか」などを考えながら製作に取り組んでいる。しかし自分のつくりたい作品のイメージが形にならず、最初から教科書や教師のお手本や友達の作品と同じようにつくる児童もいる。

そこで今回は、工作の製作を通して、木の感触に親しみながら、のこぎりを使って木をいろいろな形に切ることで、まずは、のこぎりを使って木を切ることの楽しさを感じ取ることを学習の導入に取り入れることにした。また、角材を切る、切った木切れの中から形を組み合わせて思いついたものをつくるて楽しむ活動を通して、自分のつくりたい作品のイメージをもたせることができるのでないかと考えた。また、友達と関わり合う活動を取り入れることで、発想をさらに広げができるのではないかと考え、本テーマを設定した。

### II 研究の実際

1 題材名 「のこぎりひいて、ザク、ザク、ザク」

2 題材の目標

- のこぎりで切ることに关心をもち、のこぎりを安全に使いながら、切った木切れを使って表すことに取り組むことができる。 (関心・意欲・態度)
- 切り取ってできる形や組み合わせてできる形から、自分がつくりたいものについて考えることができる。 (発想・構想の能力)
- 手や体全体の感覚を働かせながら、表したいことに合わせて、のこぎりを使い、表し方を工夫することができる。 (創造的な技能)
- 自分や友だちの作品や活動から、表現の違いに気付いたり、よさや面白さを感じ取ることができます。 (鑑賞の能力)

### 3 題材について

#### (1) 児童の実態

(男子 20 名 女子 19 名 計 39 名)

質問	集計結果
① 自分のイメージに合った作品がつくれたとき、どんな気持ちになりますか。 (複数回答)	・うれしい：33名 ・楽しい：25名 ・またつくりたい：22名 ・とくに思わない：1人
② 自分のイメージに合った作品がつくることができていますか。	・いつもできている：16名 ・だいたいはできている：20名 ・あまりできていない：3名 ・ほとんどできたことがない：1人
③ どんなときに、自分の作品のイメージができると思いますか。 (複数回答)	・材料がたくさんある：18名 ・友達と話す：25名 ・教科書の作品を見る：25名 ・学習カードに絵や文でかく：8名 ・黒板に掲示してあるお手本：17名
④ のこぎりを使って、木を切ったことがありますか。	・ある：7名 ・ない：32名

本学級の児童の多くは、図工の学習が好きで、工作にも意欲的に取り組んでいる。

事前調査の結果から、自分のイメージに合った作品がつくれると嬉しかったり楽しかったりと感じてはいるが、いつも自分のイメージに合った作品がつくれている児童は必ずしも多くはなく、逆に自分のイメージ通りにつくることができていないと感じている児童も数名いることが分かった。また、木を切ったり木切れを組み合わせたりといった体験や遊びをしたことがある児童も多くはない。そこで本題材では、まず児童が思ったように木を切ることを導入の活動として取り入れ、木を切ることの楽しさを十分に味わえるようにする。そして、木切れの形や色、組み合わせを試しながら、それらがつくり出す形の感じをとらえ、自分なりのイメージをもてるようにならう。

#### (2) 題材観

本題材では、のこぎりを使って角材を切る活動を楽しみながら、木切れを組み合わせて児童がつくりたいものをイメージし、組み合わせ方を工夫して表すことをねらいとしている。まずは木を切る心地よさを十分に味わい、木切れを並べたり積み重ねたりして、組み合わせを試行する楽しさを通して、自分がつくりたい形へと発想を広げることができる題材である。

#### (3) 指導観

のこぎりで木を切った経験がない児童がほとんどなので、のこぎりの角度や押さえる手の位置など安全面に配慮しながらポイントを押さえていく。活動の初期の段階で、のこぎりの扱い方について I C T 機器を用いて分かりやすく指導し、材料や用具を安全に扱えるようにする。また学習の中で、交流する時間を設け、友達や教師との関わりから、組み合わせの考え方の違いや共感できるところを分かり合えるようにしていく。

#### 4 題材の評価基準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
木の感触に親しみながら、用具を使って角材を切り、組み合わせてつくることに関心をもとうとする。	切り取ってできる形や組み合わせでできる形から、つくりたいものの発想を広げることができる。	用具の扱いに慣れ親しみながら、工夫してつくることができる。	友だちの作品に関心をもって見ることで、よいところを見つけることができる。

#### 5 指導と評価の計画（5時間扱い）

時間	学習内容・活動	評価基準・【評価方法】
第1次 ②	教師がのこぎりで角材を切る様子を見ながら、その方法を知り、木の感触に親しんで角材を切る。	・木の感触に親しみ、のこぎりで切つてつくることを楽しんでいる。 <b>観</b> 【観察・作品】
	のこぎりを使って、角材をいろいろな形に切る。	・のこぎりで切ることや角材の形の変化に親しみながら、工夫してつくることができる。 <b>創</b> 【観察・作品】
第2次 ② (本時)	切った角材そのものやそれらを組み合わせた形、木の感じなどをもとに、表したいことを考える。	・切り取った角材の形や、それらを組み合わせて思いついた形から、つくりたいものを考えている。 <b>発</b> 【観察・作品】
	表現したいことに合わせて、さらに角材を切ったり、木工用接着剤を使って組み立てたりする。	・表したいことに合わせて新たに角材を切ったり、木工用接着剤を使って組み立てることができる。 <b>発</b> 【観察・作品】
第3次 ①	自他の作品を鑑賞し、友だちの発想や表し方のよさについて話し合う。	・友だちの作品に関心をもって、よいところを発見したり伝え合うことができる。 <b>鑑</b> 【観察・作品・発表】

#### 6 指導の実際

##### (1) 目標

切った木切れを積み重ねたり組み合わせたり試行する楽しさを通して、自分なりのイメージをもち、つくりたい形へと発想を広げることができる。

##### (2) 準備・資料

前時で切った木切れ、紙やすり、木工用ボンド、黒板掲示用資料

(3) 展開

学習活動・内容	教師の働きかけ(○), 評価(◎)
1 本時の学習課題を確認する。  切った木切れを、つないだり重ねたりしてみよう。	○前時で切った木切れの中から、気に入ったものを自由に選んでよいと声をかけ、児童が自由に発想を広げることができるようにする。  ○「つなぐ」「合わせる」「重ねる」のキーワードから考えるように指導し、児童の製作への手がかりにする。
2 材料(木切れ)を積み重ねたり、組み合わせたりする。  ・つなぐ ・合わせる ・重ねる  「木切れを並べたり積み重ねたりすると、どんな形に見えてくるかな。」  ・木の模様が、なんだか目に見えてくる。 ・四角い形を横に並べると、長いしっぽみたいになるよ。動物にしようかな。 ・上に積み重ねると、高いタワーみたい。  「木工用ボンドで、木切れどうしをくっつけてみよう。」	○木切れは、木工用ボンドですぐに接着するのではなく、並べたり積み重ねたりして木切れの組み合わせを楽しむ時間を充分に確保する。  ○材料コーナーを用意し、自由に選べるようにする。  ○接着剤の量を多く出し過ぎないように、教師が実際にちょうどよい量を見せる。
3 うまくできたところや気に入っているところを紹介し合う。  ・○○さんの、高く積み重ねるやり方が気に入りました。私も次にやるときはやってみたいです。 4 本時のまとめをする。	○お互いに、木切れの積み重ねや組み合わせのよさを発見できるよう、教室内を自由に歩いて鑑賞する時間を設ける。  ○木切れを積み重ねたり組み合わせたりする楽しさを通して、自分なりのイメージをもち、つくりたい形へと発想を広げることができる。【観察・作品】
5 次時の活動を知る。	○次時は、つくりたいものに合わせて、さらに木を切ったり木工用ボンドで接着したりすることを伝える。
6 後片付けをする。	○時間を決めて、協力して後片付けをするよう声をかける。

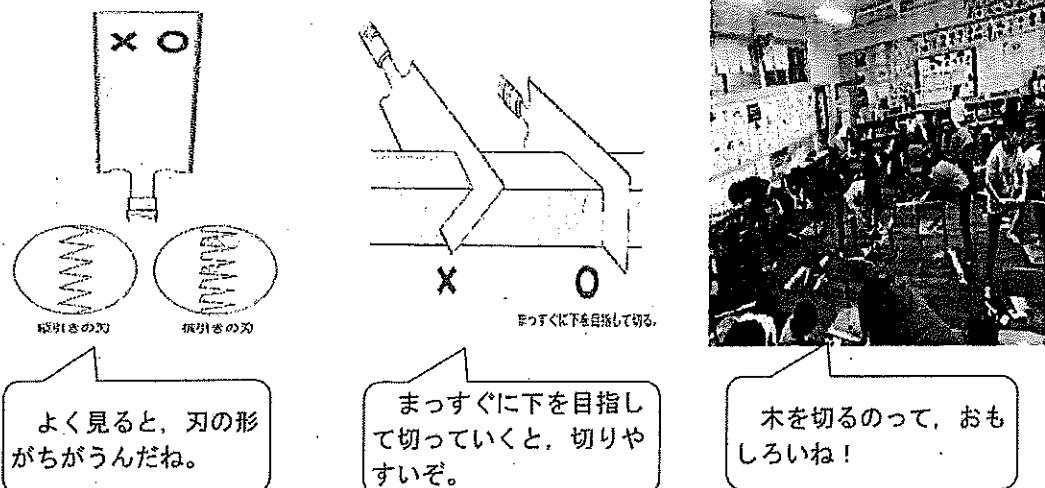
### III 研究の成果と課題

#### 1 成果

(男子 20 名 女子 19 名 計 39 名)

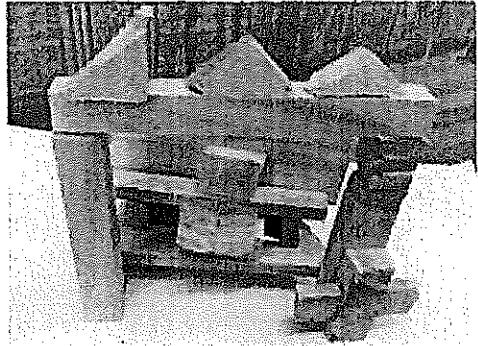
質問	集計結果
① 自分のイメージに合った作品がつくれたとき、どんな気持ちになりますか。 (複数回答)	・うれしい：35名  ・楽しい：30名 ・また作りたい：33名 ・とくに思わない：0人
② 自分のイメージに合った作品がつくれましたか。	・つくれたと思う：31名 ・どちらともいえない：6名 ・つくれなかつた：2名
③ どこから、自分のイメージが生まれましたか。 (複数回答)	・木の組み合わせを試したとき：31名 ・友達との交流：29名 ・お宝コーナー：23名 ・教科書：20名
④ 「のこぎりひいて、ザク、ザク、ザク」の学習で、楽しかったことはどんなことでしたか。	・木をいろいろな形に切ることが、楽しかつた。 ・接着剤でつなげておもしろい形になった。 ・最初に自分が考えていた形とは思ってもいなかつた形になって、おもしろかった。

(1) のこぎりの安全な使い方について、デジタル教科書の映像を見たり黒板に掲示したりポイントを確認したりしてから、教師が実演してやって見せたことで、のこぎりの使い方を学級全体で確認することができた。「手でしっかりと押さえておかないと、木が動いて切りにくいくらい気をつけた方がいいよ。」「木の香りって、いい香りだよね。」と、児童はお互いに声をかけ合いながら、木の感触に親しみつつ、木を切る楽しみを充分に味わうことができた。

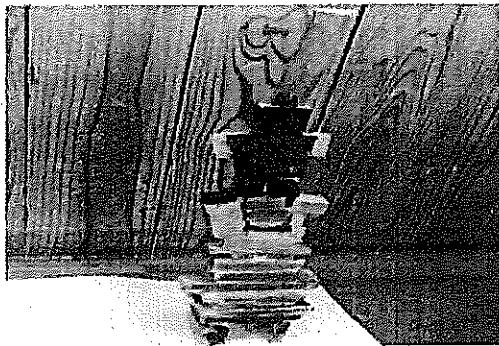


(2) 材料コーナー（お宝コーナー）を用意したことや、友達との交流の場を設けたことで、「木の模様が目のように見えるよ。」「じゃあ、動物にしてみようかな。」「どんどん積み重ねると、タワーみたいだ！」と児童それぞれが交流の中で、作品の発想を広げることができた。材料コーナー（お宝コーナー）では、自分の作品に合う

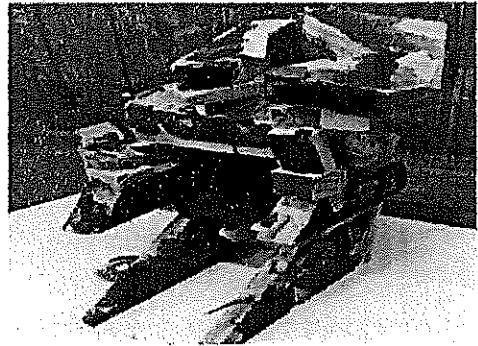
木切れや木板を使って、自分の作品をさらによいものにしていこうとする児童の意欲を高めることができた。



木切れの組み合わせ方が、おもしろいな。私もやってみよう！



木切れを積み重ねて、門の入り口にしてみたよ。



いくつも積み重ねて、タワーができたよ！

いろいろな形をつなげたら、強そうなロボットになったぞ。

## 2 課題

- ・自由に歩いて鑑賞するときに、どう鑑賞すればよいのか分からぬ児童が数名いた。自由に鑑賞を行う際にも視点をきちんと与え、友達の作品のどこが好きなのか、どの部分がおもしろかったのかを聞いて、形や色などから表現のよさやおもしろさなどを感じ、作品のイメージ作りへつながるように助言すべきだった。
- ・木を切ることや木切れを組み合わせることの楽しさに時間をかけた部分が多かったため、時間が足りないところがあった。どの活動にどれだけ時間をかけるべきか、時間配分をよく考え、児童が分かるよう時間配分の提示をし、見直しをもたせた上で活動に入るべきだった。

### ○参考資料・文献

- ・文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編」日本文教出版
- ・西尾環・森實 祐里著「ゼロから学べる小学校図画工作授業づくり」明治図書